

金融論 (第2回)

17.9.21

- 日本の資金循環：金融を概観する重要なマクロ統計 (安孫子)

1. 参考文献

- ・日本銀行 調査統計局 経済統計課、「入門資金循環 統計の利用法と日本の金融構造」東洋経済新報社、2001年
- ・日本銀行調査統計局、「資金循環統計の解説」2002年 (<http://www.boj.or.jp/stat/exp/data/exsj01.pdf>)
- ・同、「資金循環統計からみた80年代以降のわが国の金融構造」2005年4月(日本銀行調査季報、HP)

2. 資金循環とは？

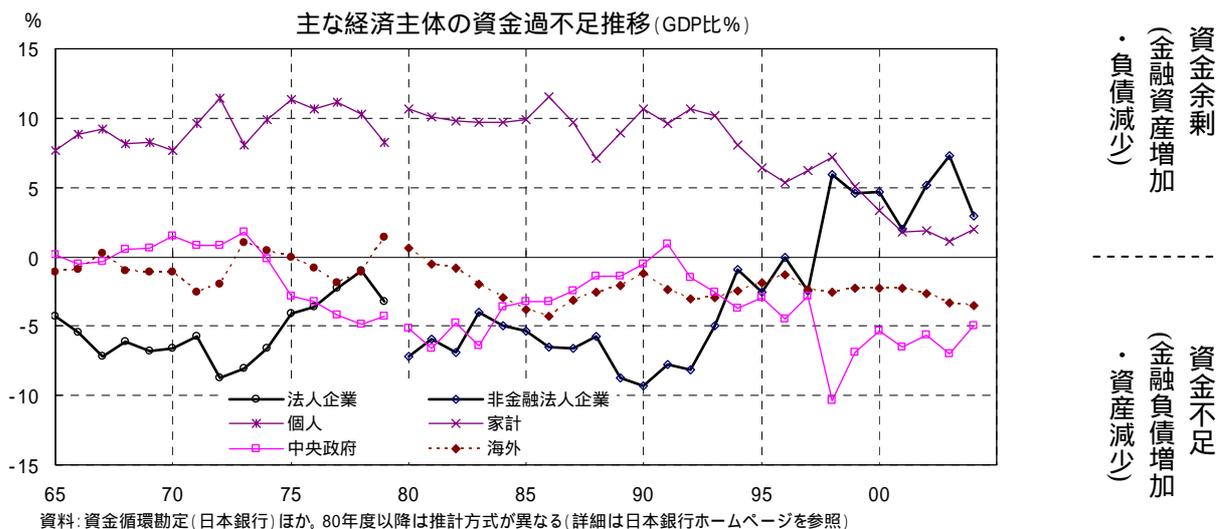
- ・日本銀行が四半期毎に作成：計数をホームページに掲載
- ・経済部門(非金融法人企業、家計、政府、海外など)ごとの合計、複式簿記の考え方
- ・ストック表(期末残高を示したもの)とフロー表(期間中の変動を示したもの)の2種類
- ・SNA統計でも重要な役割を果たしている

3. ストック(金融資産負債残高表)の特徴

- ・誰が資金の借り手で、誰が貸し手か？(金融資産の全部門計 = 金融負債の全部門計)
部門の事例：金融機関、**非金融法人企業**、一般**政府**、**家計**、対家計民間非営利団体、**海外**
2004年度末資産 2,974兆円 754兆円 495兆円 1,422兆円 46兆円 249兆円
同負債 2,956兆円 1,246兆円 892兆円 389兆円 22兆円 436兆円
- ・各経済主体が保有している金融資産のタイプも分かる
例：家計の金融資産1,422兆円(2005年3月末<確報>)。うち現金・預金776兆円、保険準備金233兆円、年金準備金149兆円、株式・出資金123兆円、株式以外の証券77兆円

4. フロー表(金融取引表)の特徴

- ・各経済主体の資金調達(負債の増加)と資金運用(資産の増加)の差額が「資金過不足」
- ・各部門の資金過不足は、経済全体では必ずゼロになる
- ・経済主体別の資金過不足の推移は、時代の要請を反映している



5. 日本の金融システムの特徴

- ・間接金融が中心(資金の貸し手の借り手の間に銀行などが入る)
- ・金融機関のバランスシートからみて不良債権とは？

以上